

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものであるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営 | 22 |
| 1. 理念の共有 | 3 |
| 2. 地域との支えあい | 3 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 5 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 7 |
| 5. 人材の育成と支援 | 4 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 10 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 4 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 6 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 17 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 3 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 3 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 10 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 38 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 30 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 8 |
| V. サービスの成果に関する項目 | 13 |
| 合計 | 100 |

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

| | |
|-----------------|---------------------|
| 事業所名 | 医療法人互舎会 グループホームはまなす |
| (ユニット名) | |
| 所在地 (県・市町村名) | 鹿児島県 阿久根市 |
| 記入者名 (管理者) | 早水 茂子 |
| 記入日 | 平成 21 年 7 月 27 日 |

(様式1)

自己評価票

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------|--|--|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念と共有 | | | |
| 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | ホームの理念である、尊厳、安心、自立を柱として安心して暮らせる環境を提供しています。できることが維持し、できないところはさりげなく支援しています。ふれあいを大切にしながら、共に支えあって暮らしています。 | |
| 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念の実践に向けて、尊厳ある関わりについて勉強会等で、職員の自己覚知を促し、お互いのケアについて再認識している。 | |
| 3 | ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | 理念についてはホーム内に掲示してある。家族会や運営推進会議の席や、入所申し込みの折等説明して事業所の取り組みを理解してもらえるようお願いしている。 | |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 | ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 場所的に隣近所との付き合いは、ほとんどないが併設している病院の患者様や、職員との交流を図ったり、散歩や、外気浴、受診時等、挨拶を交わしたりはしている。気軽にトイレ等を使用してもらっている。 | ○ 買い物等の外出支援や気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気作りに努めたい |
| 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域行事（運動会、祭り、併設病院との合同レク）に参加したり、見学したり、地域に出かける努力はしているが、十分とはいえない。運営推進会議の時にも、家族や、地域の方たちと、話し合いを行って、交流の機会ができるよう努めている。 | |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んでい きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|---|------------------------|--|
| 6 | <p>○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> | ○ | <p>事業所や職員が地域貢献につながる活動は何かないか行政に聞いたり地域の方々にもホームとしてお役にたてる事は何かないか聞いていきたい。</p> |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | |
| 7 | <p>○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> | | |
| 8 | <p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | | |
| 9 | <p>○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> | | |
| 10 | <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> | | |
| 11 | <p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んでい きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|---|---|------------------------|--------------------------------|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居申し込み時から入居決定時、重要事項の説明書、運営規定などきちんと説明し納得してもらった上で、文書を交付して契約している。 | | |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者の思いや、希望、意見、不平不満など、何でも話せ表現できる関係作りに努めている。家族や面会に来られた方達にも、気軽に声を掛けて意見を伺っている。重要事項説明書にも苦情受付窓口担当者及び、行政機関の受付所在地、電話番号、時間等を明記している。 | | |
| 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | ホーム便りや面会時等に日々の生活状況や健康に関する状況を説明して把握して頂き、意見を聞いている。体調の変化時には必ず報告、連絡、相談し、遠方の方には電話でお伝えしている。ケース記録も開示しており、家族と共に利用者の暮らしを支える取り組みを行っている。 | | |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時や家族会等を等して意見を聞き、全職員で共有してケアの向上に繋げる契機としている。苦情＝ケアの質の向上と捕らえ、些細な事でも申し送りや気づきノートに記録し、全職員情報の共有をしながら、ケアの振り返りや改善に繋げている。 | | |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 勉強会や個別面談等、気軽に意見や提案が出し合える雰囲気を作り、必要時話し合っている。職員の意見や、ハード面に対する要望等、事務所や運営者に相談している。 | | |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 勤務調整には全職員協力的であり、行事や利用者の状況、職員やその家族の状況で、微調整できている。休み希望も組み込んだシフト作りを行っており、届出書による勤務交代も必要時行っている。 | | |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んでい きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|---|---|--------------------------------|
| 18 | <p>○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>今回、管理者の定年退職で交替はあったが、職員の移動は基本的に行わないよう考慮してもらっている。職員の離職者もここ数年なく、馴染みの関係作りに配慮している。</p> | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 | <p>○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>法人内外の研修には全職員が参加できるよう、月4回の院内研修には順番で参加し、勉強会のときに報告してもらっている。又、研修会等への参加後報告してもらい、全職員のスキルアップに繋げている。資格取得や研修会への参加が気軽にできるよう勤務の微調整も行っている。</p> | |
| 20 | <p>○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>地区、グループホーム協会に加盟し、研修や交流の機会を持ち、他事業所との相互訪問、意見交換を行いながらサービス内容の見直しや、取り組みの参考にしたりして、質の向上に活かしている。</p> | |
| 21 | <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p> | <p>利用者の受信時等、職員の話聞いてアドバイスをももらったり、慰安旅行、職場対抗バレーボール等、親睦のための行事を計画、実施している。職員室の中に休憩場所も設置している。</p> | |
| 22 | <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p> | <p>ホームの出来事や、変化等随時職員から報告をうけており悩みや相談にも気軽に応じている。資格取得後は手当てで努力を報いるように努めている。</p> | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 | <p>○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> | <p>相談があったら、親身になって話を聞く努力はしている。本人の、不安感を解消できるように全職員が本人の思いを受け止め、信頼関係を構築できるように努めている。</p> | |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んでい きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|------------------------|--------------------------------|
| 24 | <p>○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> | | |
| 25 | <p>○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p> | | |
| 26 | <p>○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | |
| 27 | <p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | | |
| 28 | <p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p> | | |
| 29 | <p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p> | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んでい きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|--|---|------------------------|--------------------------------|
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 昔から利用していた美容院に出かけたり、墓参りや法事への出席、ホームでの誕生会に友人、知人が参加されたり、交流が図れるような支援に努めている。 | | |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 気の合う利用者同士で話をしたり、お互いに座る場所の確保や譲り合いを行いながら利用者同士の関係が円滑になるよう支援している。レク活動やお茶、食事の時間、職員も一緒に同席し、会話を楽しんでいる。利用者同士が、体のことを気づかたりされる場面も多く見られている。 | | |
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 他の、医療機関に入院された方でも、退院後の相談がある場合には、極力希望に添えるよう努力している。併設病院へ入院となった方達には見舞いや、面会に行ったり、家族の方も立ち寄りられ、談話して帰られ、関係を断ち切らないよう努めているがここ最近はない。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの思いを受け止め、希望や意向を聴きながら満足する暮らしに向けて全職員で把握に努めている。職員で解決できない事は、家族の支援も頂きながら希望に添った暮らしができるよう努力している。 | | |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時に家族や本人から生活習慣、バックグラウンド、アセスメントによる情報収集に努めている。日々の暮らしの中で本人の言葉から得られる情報を職員で共有したり、ケース記録に記録し、把握に努めている。 | | |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 利用者一人ひとりの生活リズム、行動言動など具体的にケース記録に記入し、また気づきノートを活用したり、申し送りでも全職員状態把握の情報を共有している。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|---|---|---------------------------------|
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人や家族の生活に対する要望や主治医の意見、職員間での意見を元に、介護計画を作成している。残存能力を活かし、自立意欲の継続や、安心、安全、尊厳を主体にして計画している。 | |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 1ヶ月に1回振り返りを、ミーティングで行い、3ヶ月に1回、モニタリングしながら状況に応じて見直し検討、計画の変更をしている。家族には些細な事柄も報告し、現状に即した対応ができるよう配慮している。 | |
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 一人ひとりのケース記録、気づきノート、生活日誌、申し送り帳、食事や排泄チェック表に日々の状況を具体的に記録し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画に反映させている。 | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 散髪や協力機関への受診付き添い、他の機関への準備、送迎、外出外泊時の支援等、出来る限り、要望に応じた支援をしている。 | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 地域推進会議を通して、警察、地域住民、民生委員、老人会、児童との交流が増えることを期待して取り組んでいきたい。又ボランティアやホームの活用などお願いして、地域との交流を図っていきたい。 | |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 本人の体調や希望に応じて、訪問美容室のサービスを受けている。協力歯科医院や病院から訪問治療や往診のサービスをしてもらっている。 | |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んでい きたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----|--|---|---------------------------------|
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 併設病院の協力により、権利擁護の必要な方に対しての支援は行えており、地域包括支援センターや、成年後見制度の活用事例がないのが現状である。地域推進会議の委員に入って頂けるよう、打診中である。 | |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 医療、看護両面において併設病院による24時間早期のバックアップ体制が整っている。医療機関や主治医の選択は、本人や家族の希望を尊重している。協力医療機関には、職員が付き添い、受診結果は家族にタイムリーに報告している。 | |
| 44 | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 併設病院の院長は当ホームの理事長で精神科医であり、認知症の専門医である。診断から、治療日々のケアに至るまで相談や助言に丁寧にに応じてもらっている。 | |
| 45 | ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 併設病院の看護職員との間で24時間早期のバックアップが受けられる体制が整っており、医療安全委員会にも参加して情報を得たり、気がかりなことを相談しながら、異常の早期発見と悪化防止に努め、より良い介護を目指している。 | |
| 46 | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 入院時には本人への支援状況や支援方法等の情報を医療機関に提供している。又家族とも連携を取り合い、回復状態を把握しながら、受け入れ態勢を整えて、主治医や担当ナースとも連絡を取りながら早期退院に向けて支援している。 | |
| 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入院治療を必要とする段階に至った時は、医療機関への転移となる事は入居申し込み時に説明、納得してもらっている。本人、家族の意向を元に、主治医と相談、ホーム、家族と話し合いながら、終末期医療機関の選択は行っている。 | |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---|--|-----------------------|--------------------------------|
| 48 | <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> | | |
| 49 | <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> | | |
| <p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p> | | | |
| 50 | <p>○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> | | |
| 51 | <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> | | |
| 52 | <p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> | | |
| <p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p> | | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んでい きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|---|--|--------------------------------|
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 家族と一緒に行きつけの美容室に出かけたり、訪問美容室も利用しているが、髪を何度も梳かしたり服を更衣したりされている。又、家族が面会時ホーム内で髪をカットできる場所も提供している。 | |
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食べたいものや、懐かしい食べ物のお話を聴いたりしながら、調理の一端や盛り付け、配膳、片付け等できる人には一緒に手伝ってもらっている。利用者と一緒に作った野菜などを使って調理し、職員も一緒にテーブルで食事を楽しんでいる。 | |
| 55 | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 日常におやつや、飲み物、果物好みを聞きながら提供している。誕生会等、イベントの時は特別に好みの飲み物を出したり、なつかしい団子やおやつと一緒に作ったりして楽しんでいる。 | |
| 56 | ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 排泄パターンや本人の仕草を知る事でトイレ誘導により、失禁や放尿を防止したり、排泄チェック表をつける事で、排泄介助に役立っている。日中は、トイレでの排泄が出来ており、夜間3人ポータブル使用しているが、使用後はすぐ洗浄し、気持ちよく排泄できるよう支援している。 | |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴日の設定は基本的にはあるが、入れない時は翌日にしたり、其の時の状況においてはシャワー浴を施行したり、足浴や部分浴したりしている。入浴が楽しめるよう一人ひとりの希望や無理強いない声掛け等、ゆっくりのんびりと楽しんで入れるよう、配慮している。 | |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 昼夜逆転にならないよう、昼間の活動を通して生活のリズムを整え、メリハリをつける支援をしている。昼間の休憩もその人のペースで安心して気持ちよく眠れるよう、音や暗さ、室温等、配慮している。 | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んでい きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------|--|---|--|
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 花や野菜作り、草むしりや洗濯物干し、取り入れ等出来る事をして頂きながら、有用間、達成感を感じられるよう言葉掛けをしている。取れた野菜や、スイカ等一緒に頂きながら、楽しみや喜びのある生活が送れるよう支援している。 | |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 小額のお金を持っている人もいるが、現在買い物支援や外出の機会も少なく、お金を使える支援は出来ていない状況である。 | |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 気候や、気分に合わせていつでも気軽に戸外へ出られるよう外にベンチを置いたり、戸外でお茶が飲めるような配慮は行えている。散歩や、外気浴も日常的に行えている。 | |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 年1回花見等で外出しているが、個々には墓参りに行ったり、食事に出かけたりしている人もある。これからは、一人ひとり行って見たいところの希望を聞いたりしながら、外に出かける機会を設けて行きたい。 | ○ これからは、一人ひとり行きたいところの希望を募りながら、外に出かけ楽しみのある生活につなげていきたい。 |
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望によりいつでも電話したり、職員が取り次いだりしており、今後手紙やはがきを出して、大切な人との交流が深められるような支援もしていきたい。 | |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 面会の時間や設定もなく、気軽に訪問してゆっくりくつろいで頂ける雰囲気作りを心がけている。お茶の接待等しながら、ご家族や利用者の思いを引き出せるよう工夫している。 | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | |


| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んでい きたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----|--|------------------------|---------------------------------|
| 65 | <p>○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p> | | |
| 66 | <p>○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p> | | |
| 67 | <p>○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p> | | |
| 68 | <p>○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p> | | |
| 69 | <p>○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p> | | |
| 70 | <p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p> | | |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んでい きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----|---|------------------------|---------------------------------|
| 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより 地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | | |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等 に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応 策を話し合っている | | |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んでい きたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|---|---|---------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、 気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結 び付けている | 毎日のバイタルチェックだけに頼らず、顔色、表 情食欲、排泄、行動や言動等の観察により、異常 の早期発見に努め、記録と情報交換、情報の共 有、医療機関との連携により、悪化防止に努めて いる。些細なことでも家族へ連絡報告することを 申し合わせている。 | |
| 74 | ○服薬支援 職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や 副作用、用法や用量について理解しており、服薬 の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋や服薬方法等を個別にファイルして職員全 員が内容を把握できるようにしている。主治医の 指示通り、確実な与薬と誤嚥防止のために目付、 記録の徹底、与薬時3回確認の原則の徹底、状態変 化の観察と報告、医療機関との連携を図ってい る。 | |
| 75 | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予 防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働 きかけ等に取り組んでいる | 食事は繊維質の多い食材や牛乳、野菜を多く取り 入れ水分補給にも力を入れている。排便チェック 表により、毎日確認、下剤や浣腸に頼らず、散歩 や運動腹部マッサージ等身体を動かし自然排便の 働きかけをしている。 | |
| 76 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしてい る | 口腔ケアの必要性は全職員が理解しており起床 時、毎食後、歯磨きうがいの声掛けをして個別対 応している。口腔ケアは清潔や臭気のみならず、 肺炎防止のためにも、徹底している。 | |
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている | 食事や、水分摂取状況は毎日記録して職員全員で 共有している。新鮮な食材の組み合わせ、献立の 工夫、体重測定、血液検査データ等と照らし合 わせ、主治医や併設病院の管理栄養士に相談しな がら助言を受けている。個人の、咀嚼、嚥下状態に よって調理法方を工夫している。 | |
| 78 | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、 実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、M R S A、ノロウイルス等） | 併設病院と合同で月1回「感染防止対策委員会」に 出席したり、マニュアルを参考にして全職員で予 防に取り組み、ホーム内感染防止に努めている。 （職員全員のインフルエンザ予防接種、うがい、 手洗の施行、ペーパータオル使用、ベルコムロー ション、アルコール消毒） | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んでい きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|--|---------------------------------|
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | まな板や布巾はハイター消毒、調理器具や食器類は熱風乾燥、冷蔵庫の点検や清潔に努め、賞味期限の確認、加熱調理、手洗の施行徹底に努めている。 | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 特別な垣根や塀もなくいつでも誰でも出入り出来るように開放している。玄関周りにはプランターや花壇の花を植えたり野菜を作ったりしてあり、併設病院の患者様や職員が立ち寄り、談話したりして利用者との交流も図られている。 | |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | テーブルには季節の草花を生けたり、居間や食堂に行事等の思い出の写真を飾ってある。玄関にはベンチを置き外気浴などくつろげる場所になっている。夏の日差しを遮る工夫としてよしずの利用やカーテン、窓の開閉により心地よい空気の入取れなど工夫している。 | |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居間のソファで会話をしたりテレビを見たりされている。外のベンチで日光浴や外気浴をしたり、プランターや、花壇の水掛、周囲の散策など気の合う同士で過ごしたり独りでくつろいだりして過ごせるような、場所や、道具の設置工夫をしている。 | |
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人の好みの荷物の持込など、制限はない事を話してはいるが、大きなタンスや家具等の持込等はほとんどない。思い出の写真や、人形衣装ケース、目覚まし時計、お位牌等、必要なものだけの居室もある。毎月のカレンダーは、各自居室に飾ってもらっている。 | |
| 84 | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | オゾン消臭機の設置、換気の徹底、ごみの処理やトイレの自動洗浄、ポータブルトイレ使用時の即洗浄等、臭気除去には気をつけている。冷暖房の温度設定も居間に備え付けの寒暖計や、利用者の体感温度を聴きながら、調整している。 | |

| 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取組んでい きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|---|--|--------------------------------|
| (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下や居間、食堂、洗面所、浴室等、要所要所に手摺りを設置している。車椅子が自由に安全に移動できるように障害物の除去、玄関周りや、階段の手摺り設置、畑や裏山の周りには転落防止の為にフェンスを取り付けて利用者の自由な行動を支える工夫をしている。 | |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 自室と他室の判断の出来ない事によるトラブル防止と自室の目印の為に居室には表札と顔写真を貼っている。屋外の活動や散歩時には杖やシルバーカー車椅子など利用される人の事故防止の為に安全確認、見守り声掛けをしながら安心のある自立した生活が送れるように配慮している。 | |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 菜園やプランターで花の手入れや野菜を収穫したりホームの敷地で筍やつわぶき、ワラビ採り、団子の葉を採集したり、ベランダでの外気浴、歌や、会話が楽しめるような配慮をしている。 | |

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

| 項 目 | | 回答 |
|-----|----------------------------------|--|
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ③ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |

| 項 目 | | 回答 |
|-----|---|--|
| 94 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない |
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ③ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない |
| 98 | 職員は、生き活きと働いている | ① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

母体医療機関の敷地内に設置されている利点を活かし、医療面での24時間、早期のバックアップ体制が整備されている。利用者及び家族の一人ひとりの尊厳と意思を共有しながら、一瞬一瞬を理解し安心のある生活を支えています。ホームの菜園を手入れしたり、収穫した野菜を調理して食したりしながら、入居者の楽しみ、役割が感じられるよう支援しています。入居者様の生活の質が向上していけるよう、家族や地域の方々と率直な意見交換しながら開かれたホームの運営を行っています。